

領 収 証

№ 035333

小森 隆一 様

領収金額 ¥ 70400

上記の通り領収致しました

R4 年 12 月 14 日



やじま印刷株式会社

〒327-0003 栃木県安堵市大橋町1105

TEL (0283) 22-6428(代)

FAX (0283) 24-7247

小森りゆう通信 印刷代と12

領 収 書

令和 5 年 1 月 27 日

小森 隆一 議員

金 額
(消費税込)

425円

「男女共同参画ネットワークさの」との議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(令和4年12月21日報告会開催)

佐野市議会報告会運営委員会委員長 小倉 健一



小森りゅういち通信

未来を拓く安心安全な佐野市づくりに挑戦!

第2号

2022年 冬号

発行者 小森 隆一
住 所 佐野市大橋町1021-33
TEL/FAX 0283-22-6172

<ごあいさつ>

with コロナの生活が続いております。皆さまにおかれましては、今後も感染症対策を徹底されお身体をご自愛ください。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

佐野市議会公明党議員会 小森 隆一

小森隆一 検索



ホームページ
公開中

議 会 報 告

<令和3年12月定例議会の一般質問の要旨>

こどもたちの個性や多様性を大切にしたい教育を!



質問1 教育について

質問) 学習障がいのある子供たちや不登校である子供たちでもiPad等で無料学習ができる、マルチメディアデジタル教科書についての考えは?

答弁) これまでも学習障がい、特に読み書きに困難を抱える子供たちに対して有効であることから、特別支援学級に限らず、各校で利用申請の上、活用を図ってきた。今後、各学校に在籍する読み書きに困難を抱える子供たちの実態及びニーズを把握した上で利用申請も検討していきたい。

誰にも優しい街づくりを!

質問2 障がい者支援について

質問) 音響式歩行者信号機の設置率を向上させるための課題は?

答弁) 信号機からの音響が近隣の家屋内にまで届くため生活の妨げとなることから、地域住民の合意形成が必要。音響装置を設置するためにケーブルの地下埋設工事が必要である。

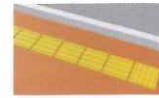
質問) 点字ブロック敷設の整備率を向上させるための課題は?

答弁) 多くの事業費や事業期間がかかる。また、道路は様々な利用者があるため、例えば高齢者においては、点字ブロックの段差によって転倒するおそれがある。整備をする上で、沿線の皆様や利用する皆様のご理解、ご協力をいただくことも課題の一つ。今後もこれらの課題に向き合いつつ、限られた予算の中で整備が必要な道路から順次整備を進めたい。

質問) 暗所視支援眼鏡への助成の取り組みは?

答弁) 暗所視支援眼鏡利用のニーズの把握や用具の性能や効果など、また先進的な自治体における実績などの情報を収集しながら、動向を注視する。

要望) 点字ブロックの整備と音響式歩行者用信号機の設置推進について全国平均設置率を目指していただきたい。



誰もが自由にお出かけしやすくなるような公共交通の充実を!

質問3 デマンド交通について



質問) デマンド交通について、現行以外の地域への導入予定や今後の取り組みについては?

答弁) 令和4年4月より吾妻エリアに植野地区南部の5町会を加え運行を行っている。今後の取組につきまして、現在策定中の公共交通の指針となる佐野市地域公共交通計画に基づき進めていく。

要望) 市民の皆様の声を十分に聞いていただきながら、持続可能で誰もが自由にお出かけできるような、公共交通手段改善への取り組みをお願いしたい。

市内南部地域の開発促進を!



質問4 国道50号沿線開発の促進について

質問) 国道50号沿線開発促進へ向けた今後の計画については?

答弁) 国道50号沿線は交通利便性の高い地域であり、本市の産業振興において重要な役割を果たすエリアとなっているため、東西2つのエリアを開発想定エリアとして位置づけている。現在、東側エリアは未着手となっているが、西側エリアについては、今後も引き続き早期事業化に向けて開発区域を特定するため、調査地域の課題整理や実現方策の検討を行うとともに、栃木県との協議などを継続しながら、調査検討を行っていく。

要望) 住民の皆様の要望をできるだけ反映させていただきながら、スピード感を持って着実に進めていただきたい。

子どもたちに安全
安心な生活を!



質問1

小児(5~11歳)への新型コロナウイルスワクチン接種について

質問) 小児(5~11歳)への1、2回目接種に関しては、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の方針で現時点では、努力義務の規定は適用しないこととし、今後、最新の科学的知見を踏まえて、改めて議論する事となっている。対象者から接種への一定理解を得ていくことは難しいとも考えるが?

答弁) 小児(5歳から11歳)の新型コロナウイルス感染症については、中等度や重症例の割合は少ないものの、新規感染者数が増加している。本市は佐野市医師会との協議により、小児接種を希望される方に市内の協力小児科での接種を実施する。今後、国より新たな知見等の情報が得られ次第、速やかに市のホームページ等でお知らせする。(令和4年9月より努力義務が適用)

要望) 今後も感染症対策については、様々な課題に対して関係部署との連携をさらに強めていただき、危機管理を徹底して先手の施策実行をお願いしたい。

空き家解消の推進を!



質問2 空き家対策について

質問) 空き家バンク登録物件とセットで農地を取得する場合、新たに農地を取得しやすいように環境整備を行っているが、実績は?

答弁) 農地付空き家の農地面積が1アール(100平方メートル)以上となった平成31年度からの農地付空き家の実績は、令和4年2月末日現在で2件であり、農地付空き家についても空き家バンクの登録の周知を図っていく。

質問) 空き家等を利活用した移住促進を加速させる施策等は?

答弁) 現在、本市への定住を目的に空き家バンクを利用し空き家を取得した方を対象に、その空き家の改修費用に対する補助を行っている。このほか若者移住定住促進奨励金として、市外から転入し住宅を取得した若者世帯を対象に奨励金の交付をしている。

質問) 空き家等の利活用として、住宅セーフティネット制度への本市の取り組み状況は?

答弁) 民間の空き家、空き室を活用して、高齢者や障がい者、子育て世帯、低額所得者世帯などの住宅の確保に配慮が必要な方に、入居を拒まない賃貸住宅の提供を促進することを目的として平成29年に設立された制度である。空き家の利活用として、今後は空き家の所有者の方へセーフティネット住宅への登録の周知啓発を図りたい。

質問) 本市の特定空き家等除却促進事業の現状は?

答弁) 周辺に悪影響を及ぼす危険な空き家等を解消するため実施するもので、特定空き家等と認定された空き家等の除却を行う場合、解体工事費の2分の1、最大で50万円を補助しており、平成29年度から133件の危険な空き家が解消されている。しかし昨年の実態調査により、危険性が高い空き家が依然として存在している。

再質問) 今後補助金を増額する考えは?

答弁) 今後、管理不十分な空き家も増加すると考えられる。その状況から、限られた予算の中で補助額を増額するのではなく、年間の補助対象の物件数を増加することで特定空き家の解消が図れるのではないかと。

要望) コロナ禍で働き方改革が進んだ影響により、人口の東京一極集中からの分散傾向が顕著に見られている。今こそ、空き家対策として移住促進を進めるチャンスなので佐野市を最大限にアピールしていただきたい。

誰一人として取り残さない共生
社会の構築を!

質問3 社会的孤立対策について

質問) 孤立、貧困、ひきこもり等地域の方々を抱える複合的な課題に対応するため、属性や世代を問わず、当事者を中心とした断らない相談支援、参加支援、地域づくり支援を、市が地域の方々や民間団体と一体となって包括的に行う重層的支援体制整備事業については?

答弁) 本市では、総合的な支援体制として福祉まると相談窓口を設置しており、福祉に関する困り事で相談先が分からない、複数の分野にまたがる課題を抱えているといった場合に相談を受け、必要な部署や適切な相談支援機関につなぐなどして課題の解決を図っている。なお、子供とその家庭及び妊産婦等に対しては、子ども家庭総合支援拠点や子育て世代包括支援センターが一体となって関係機関と連携して対応している。また、民生委員・児童委員などの福祉関係者とも連携を図り、地域での課題解決に向けた取り組みを行っている。今後は、新たにヤングケアラー対策事業やひきこもり相談支援事業を実施するなど、地域の方々を抱える複雑・複合化する課題へのさらなる対応を図りたい。

要望) 今後もお互いが利他の心で思いやって独りぼっちをつくらない支え合う社会づくりをお願いしたい。

